

令和7年度 江東区立第二亀戸小学校 自己評価表

校長名 飯川 浩二

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域1		学力の向上（あたまづくり）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	「こうとう学びスタンダード」の定着を児童全員達成できるよう、学年で確認し合った週予定表を毎週末に児童に配信する。授業計画等、週案で確実に管理を行う。	100	「こうとう学びスタンダード」の国語・算数・英語の定着度が4月の調査で全学年100%となる。（指標は第5学年を用いる）	76	B
2	どの教科でも「こどもに合わせた」「主体的・対話的な学び」を目指す授業改善を行う。個に応じて1人1台タブレット端末を効果的に活用する授業改善を行う。	98.0	「自分からすすんで学習した」と回答する児童が100%以上となる。 「タブレットを活用する授業が楽しい」と回答する児童が100%となる	87 93	B
3	自然を感じ、自己表現力の育成と語彙力の向上を図るために俳句・読書の学習を計画通り実施し、年5回の学校俳句コンクールを開く。	100	「読書がすき」「俳句の学習が楽しい」と回答する児童が100%となる。	79 71	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5学年SD定着度調査結果より 国語 75.2(72.4)、算数 75.2(72.6)、英語 95.1(93.6) いずれも区平均を超える結果である。※()は区平均 ・ChallengeWednesday、ChallengeSummerをはじめ、自主学習が定着している児童が増えてきている。 ・タブレットを活用する授業が日常化しつつあるが、デジタルとアナログを選択できるよう、より効率的な活用を模索している。 ・学校図書館の利用状況が上がっている。 ・読書・俳句の取組を計画通り実施し、朝会で受賞した児童を紹介するなど児童に意欲付けを図る。 ・教科担任制（年間を通した交換授業）では、特に英語学習に大きな成果があった。 					

重点領域2		体力の向上（からだづくり）（こころづくり）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	体育の授業では、コーディネーショントレーニングを取り入れた「わくわくタイム」を毎時間行い、校内研究を通して体育授業の改善を図る。	96.0	「体育の授業が楽しい」と回答する児童が100%となる	91	B
2	体育的行事やオリパラ教育を計画通り実施する。	96.0	「体力向上の取組やオリンピック・パラリンピックの学習に自分なりに取り組めた」と回答する児童が100%となる。	83	B
3	食に関する指導の全体計画、保健指導の年間計画等に基づき、食育、保健指導を計画的に実施する。	100	「給食や保健の学習を通して自分の体や健康についてよく考えた」と回答する児童が100%となる。	84	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を体育（運動領域は指定しない）とし、わくわくタイムをはじめ、めあてをもって学習に取り組ませる意識を高めている。学習をこどもに委ねる場面も増えてきており授業改善が進んできた。 ・4・5月にコーディネーショントレーニング研修を実施し、授業に活かしている。道徳授業地区公開講座においてもCOTを行う。 ・体育的活動を計画的に実施している。 ・5・6年生は江東区家庭料理検定を全員が受験するなど、食育を計画的に実施する。 					

<様式1>

重点領域3		豊かな心の育成（こころづくり）（なかまづくり）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	4つの「あ」（あいさつ、あつまり、あんぜん、あとしまつ）の徹底を、教員自ら手本を示すなど具体的な取組を行う。	100	「自分から進んで元気にあいさつすることができた」と回答する児童が100%となる。	89	B
2	二亀小のきまりや月目標、学び方スタンダード定着のために、定期的な振り返りなどの取組を計画的に実施する。	100	「学び方スタンダードをはじめとする二亀小のきまりを守ることができた」と回答する児童が100%となる。	92	B
3	ともだちアンケートを年3回に実施し、いじめの早期発見に努める。「いじめは絶対に許さない」取組を特別の教科道徳を中心に全学級年間3回以上行う。	100	「いじめは絶対にしてはいけない」と回答する児童が100%となる。	98	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童調査では「あいさつ」は中間よりも向上した。各学級でこども主体の取組を継続して実施していく。校長講話でも積極的に取り扱う。 ・学び方スタンダードの自己評価と定着度には開きがある。引き続き徹底していく。 ・「ともだちアンケート」をはじめ、いじめ早期発見、早期対応に努める。 ・いじめ対策委員会を計画的に開催し、いじめ防止授業をはじめ未然防止、早期発見、早期対応、解消後の見守りについて引き続き組織的に実施していく。 ・「よつばルーム」のさらなる効果的な活用を検討していく。 					

重点領域4		なかま・地域とともに歩む学校（なかまづくり）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	学習や学校生活の情報を積極的に発信し、個人面談・保護者会等で意見を交流し、保護者や地域からの理解と信頼を深める。情報発信ではペーパーレス化を推進する。	100	保護者アンケートで「学校は積極的に情報発信をしている」と回答する保護者が100%となる。	95	B
2	にこにこタイム（異学年交流）や、併設幼稚園等を活用した異校種交流、グループ活動、ペア活動などを意図的・計画的に実施する。教員も併設幼稚園参観を年1回以上行う。	100	「にこにこタイム（異学年交流）や異校種交流、グループ活動が楽しい」と回答する児童が100%となる。	95	B
3	コミュニティスクール化へ向けて、地域学校協働本部等、地域施設や人材を有効に活用するなど、学習、行事、いじめ対応など各種学校運営を、保護者、地域、外部機関等と協働してすすめる。	100	保護者アンケートで「学校は保護者や地域等と協働して学校運営を行っている」と回答する保護者が100%となる。	92	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐる等によるペーパーレス化を推進している。 ・全学級で毎週末に週予定表を配布し学習予定や持ち物、宿題など児童や保護者に見通しをもってもらう工夫をしている。 ・保護者アンケートなど今後もオンラインの活用をしていく。 ・展覧会など、こども主体の取組を増やしている。 ・各種行事や異学年交流、縦割り範活動など継続して実施していく。 ・今後もホームページを定期的に更新する。 ・コミュニティスクールは令和8年度開始する。 ・3月までに「こども教育目標」の策定を行い、令和8年度の最上位目標とする。 					

【評価】成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。

A:90%以上（※本校は100%で目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）

B:50%以上90%未満

C:50%未満（目標や努力指標等を見直す）